

はじめに

見所がいっぱいの山中湖村です。中でもとびきり大切な宝が三つあります。

ひとつ 天までとどきそうな日本一の富士山

ひとつ 富士五湖のなかで一番ひろい くじらの形 山中湖

そして、耳を澄ますと聞こえてくる、パタパタ、キャキャ

村の道を駆け抜けてくるのは笑顔いっぱいの子どもたち、

そう、山中湖の子どもたちは、わたしたちの村のかけがえない宝です。

けれどもそんな子どもたちにおしよせる少子化の波は、小さな波をたてて、

静かにここ山中湖にも迫ってきています。

この計画書は、これからの村にさらなる少子化を進めさせないために、子どもたちが健やかに育つために、そしてその子どもたちが山中湖村の将来をしっかりと受け継いでいけるように、村の人たちの知恵や願いをこめたものです。

若い人たちが、この村で子どもを産み育てたいといえるような環境作り、子どもたちが、風光明媚なこの村を愛し、おとしよりや幼い子を大切にできる人に育つような環境作り、一人一人の個性・能力を伸ばし、いきいきと成長していけるような環境作りに向けて、村が一丸となって取り組むこと、それが山中湖の将来を大きく切り開き輝かしていくことにつながります。

「山中湖について」

山中小 6年 成島直央さん

ぼくは、山中湖村に住んでいます。山中は、湖があります。そこには白鳥もいます。つりをすれば、ブラックバスなどもつることが出来ます。そして、こおった湖に乗ってわかさぎ釣りをする人もいっぱいいます。また山中湖はとても富士山がよく見えます。だから、休日になると山中に、とても多くの観光客が来ます。ぼくは、山中に生まれてとてもよかったと思います。山中はとても空気がおいしく、とても住みやすいところです。これからも、そんな山中湖の自然を大切にしていきたいです。

「友達」

東小 6年 畑綾菜さん
ともだち たったの78人
すくないなあ…
全校なのに…
先生入れても
百人いかないなんて
でも
すくなくても
やさしい人もいる
これからも…よろしく



文責：みずうみ（山中小1）
白鳥（東小）より

……子どもたちの将来の夢はさまざまです。おとなの世代の命・夢をうけつぎ未来をつくる子どもたちのために、……

そんな思いをこめて「ニーズ調査、子育て座談会や子育てワークショップ」等を実施し村民の皆様のご意見を頂戴するなかで、「げんきに生まれ育つ やまなかこっ子計画」をここにまとめました。

村では、村民の皆様はこのダイジェスト版で、この計画の趣旨等をお知らせし、村全体で「村のたから」子どもたちを、支えるためのご理解とご協力をお願いするものです。

平成16年3月
山中湖村長 高村 朝次

次世代育成支援地域行動計画とは…



計画の趣旨

わが国は、平成15年の高齢者人口の割合が19.0%に達し、一方15歳未満の子どもの数は14.1%と最低を更新しました。また、平成18年（2006年）をピークに総人口が減少すると予測されています。

山中湖村では平成15年度の高齢者人口の割合が17.4%を示し、14歳以下の年少人口の割合は15.1%と最低数値の更新が続いています。

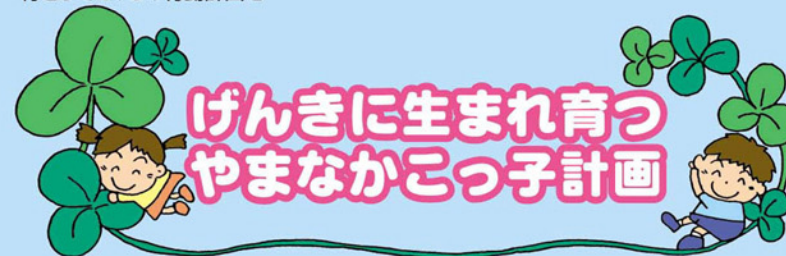
国では、このような少子化の流れを変えるため平成15年7月に「次世代育成支援対策推進法」を制定し、本村も、子どもと子育て家庭を取り巻く環境のさまざまな変化に対応して、子どもの成長と子育てを地域全体で支援し、子どもが尊重され、子育てが大切にされる社会を計画的に構築するための指針として、率先してここに「山中湖村次世代育成支援行動計画」を策定しました。

なお、本村では行動計画の策定にあたり、平成16年度末までの策定が義務づけられている中で、全国53の先行策定市町村の指定をうけ、平成15年度中に1年先行して策定に取り組んでまいりました。

計画の目標

「山中湖村次世代育成支援行動計画」は、子どもが健やかにげんきに成長できるよう、家庭や地域、学校、保育所などが、子どもが何を求めているのか、子どもにとって何が必要なのかを考え、子どもたちの権利が尊重される新しい子育て支援社会を構築していけるように策定する子育て計画です。そして、その子どもたちを育てる、父親、母親や、これから子どもを生み育てる次世代の親が、子育てに対する喜びを実感することができ、また子育ての意義について理解を深めることができるように地域全体で支援していきます。

村としては、この行動計画を



として、目標に向かって行動します。

計画の期間

この計画の期間は、平成16年度（2004年）を初年度、平成26年度（2014年）を目標年次とする11か年計画とし、平成21年度に計画の見直しを行います。